

第3章

東京フォーラム

行 動 地 図

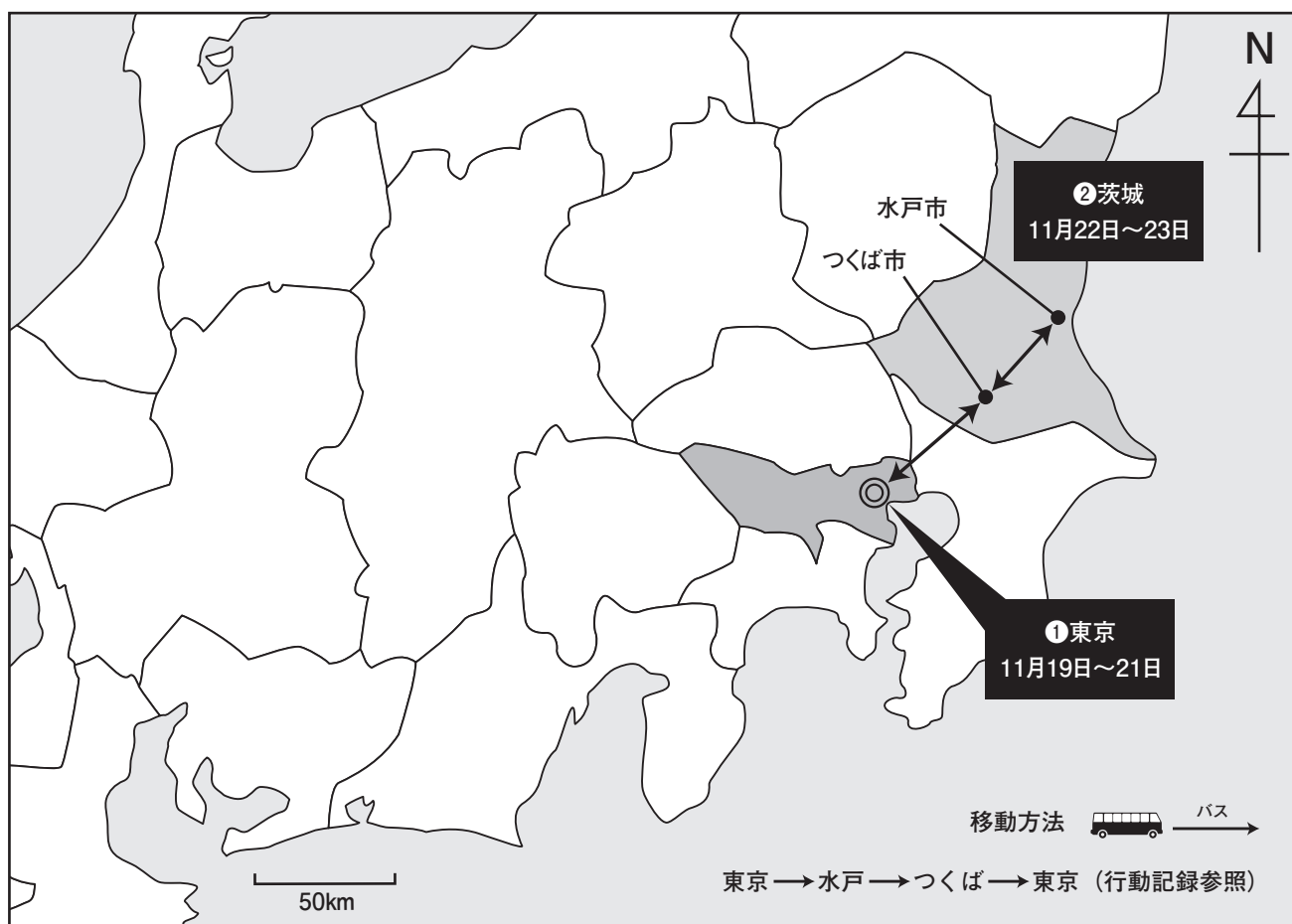
行 動 記 録

訪問先等一覧

事 業 報 告

行動地図

2024年度日本・中国青年親善交流事業 東京フォーラム



行 動 記 録

2024年度日本・中国青年親善交流事業 東京フォーラム

	月日	時間	活動内容	滞在都市
1	11月19日 (火)	12:50 14:30 15:30-17:00 18:00-18:20 18:30-20:00	羽田空港着（中国青年） 羽田空港発（中国青年） オリエンテーション 中国青年代表团代表者による内閣府由布和嘉子大臣官房審議官表敬訪問 内閣府由布和嘉子大臣官房審議官主催歓迎会	東京
2	11月20日 (水)	9:00-10:30 10:30-11:30 13:30-15:00 15:30-18:00 19:00-20:00	基調講演（東京大学 川島真教授） ディスカッションⅠ（オリエンテーション・アイスブレイク） テーマ別施設訪問（①気候変動・環境）環境省地球環境局 ディスカッションⅡ（①気候変動・環境&②少子高齢化） ディスカッションの続きなど（自主活動）	
3	11月21日 (木)	10:00-11:30 13:30-14:00 14:10-15:25 15:30-16:00 16:00-20:00	テーマ別施設訪問（②少子高齢化） こども家庭庁長官官房少子化対策室 成果発表会準備 成果発表会 地方オリエンテーション 日本青年企画による東京都内視察・夕食	
4	11月22日 (金)	8:00 10:00 11:00 11:30 15:00 15:10 15:40 18:00	移動（都内→水戸市） 茨城県庁到着、25F展望ロビー視察 大井川和彦茨城県知事表敬訪問 移動（水戸市→つくば市） 五十嵐立青つくば市長表敬訪問 つくば市からの講義 地元青年とのディスカッション 歓迎会	水戸市 ↓ つくば市
5	11月23日 (土)	9:00 11:15 11:30-12:30 13:00 15:30-16:00 16:00-18:00	カスミ フードスクエア つくばスタイル店視察 サイバーダイナスタジオ視察 中国青年 成田空港へ出発 〈移動〉 昼食 移動（つくば市→都内） オリエンテーション（出発前準備） 団研修	東京

訪問先等一覧

2024年度日本・中国青年親善交流事業 東京フォーラム

11月19日

プログラム	由布和嘉子内閣府大臣官房審議官主催歓迎会
都 市	東京都
面 会 者	由布和嘉子 内閣府大臣官房審議官 ほか
日本青年による報告	由布和嘉子内閣府大臣官房審議官(青年国際交流担当室長)、中国青年団の朱昊煒団長、日本青年団の別府充彦団長のご挨拶ののち乾杯。日本青年団はハート型の折り紙のデモンストレーションを行い、鶴とパンダの折り紙をプレゼントした。また、楽曲「アイドル」に合わせてオタ芸と中国語歌詞での歌唱を披露した。中国青年団からは二人が書道をし、日中友好の願いを込めて「和平共榮 青山一道雲雨 明月何曾是兩鄉」としたためた。また、中国青年男子一名が「打上花火」を歌唱した。

11月20日

プログラム	基調講演
都 市	東京都
面 会 者	川島真 東京大学教授
日本青年による報告	川島真教授による基調講演が行われた。日中間の安全保障や経済の問題は協力して解決すべきであり、相互理解が求められる。報道やメディアの偏りも双方の感情を悪化させており、対話の重要性が増しているとの川島教授からのお話があった。日中両青年から多数日中関係の実情に関する質問が寄せられた。

プログラム	テーマ別施設訪問(①気候変動・環境)環境省地球環境局
都 市	東京都
面 会 者	島田智寛 環境省地球環境局脱炭素ライフスタイル推進室長
日本青年による報告	気候変動への対策として、「デコ活」を中心として日本でおこなわれている施策をご紹介いただいた。私たちの身近な生活の中でさまざまなことを意識することができるのだということを学ぶことができた。また、日本青年にとっては聞きなれた取り組みであっても、中国青年にとっては新鮮に思われる取り組みがいくつかあったことが印象的であった。

11月21日

プログラム テーマ別施設訪問 (②少子高齢化)こども家庭庁長官官房少子化対策室	
都 市	東京都
面 会 者	橋爪孝明 こども家庭庁長官官房少子化対策室長
日本青年による報告	こども家庭庁長官官房少子化対策室にて「日本の少子化対策について」のご講演をいただいた。こども・子育て政策の現状や課題に触れたのちに、こども未来戦略の基本理念である「若い世代の所得を増やす」「社会全体の構造・意識を変える」「全ての子育て世帯を切れ目なく支援する」という3つの基本理念に基づいた施策について説明を受けた。日中青年からも他省庁や官民連携といった点でいくつかの質問が寄せられた。

プログラム 東京都内視察 (グループ①)	
都 市	東京都
日本青年による報告	日本橋で日本青年による東京案内を行った。各グループに分かれ日本の代表的なチェーン店や地方の郷土料理を食べた。東京駅周辺では日本のアニメに関する場所に行った。中国青年は日本の食や文化に関心を示し、東京でのお土産を買うことを楽しんだ。

プログラム 東京都内視察 (グループ②)	
都 市	東京都
日本青年による報告	六本木で日本青年による東京案内を行い、居酒屋チェーン店で串カツと手作りたこ焼きを楽しんだ。食後は東京ミッドタウン横の檜町公園でイルミネーションを鑑賞した。最後は増上寺にて他グループと合流し、芝公園にてライトアップされた東京タワーを背景に全員で記念撮影をした。

11月22日

プログラム	茨城県知事表敬訪問
都 市	茨城県(水戸市)
面 会 者	大井川和彦 茨城県知事
日本青年による報告	茨城県庁にて大井川知事の表敬訪問を行った。大井川知事からは、地域の特色を生かしつつ、農業や工業のバランスの取れた茨城県のまちづくりのお話を伺うことができた。地域の発展には人材が必要だというお話が特に印象に残った。

プログラム	つくば市表敬訪問 つくば市講義
都 市	茨城県(つくば市)
面 会 者	五十嵐立青 つくば市長 中山秀之 つくば市政策イノベーション部科学技術戦略課長
日本青年による報告	五十嵐つくば市長よりご挨拶をいただき、記念品贈呈・記念撮影を行った。その後、中山つくば市政策イノベーション部科学技術戦略課長より「市民のために科学技術を活かすには？ーつくばスーパーサイエンスシティ構想ー」というご講演をいただいた。つくば市が抱える問題を科学技術を用いてどのように解決しているのかの説明を受けたことで、つくば市の「ともに創る」姿勢を目の当たりにした。

プログラム	歓迎会
都 市	茨城県(つくば市)
面 会 者	市村志保 茨城県福祉部こども政策局局長 長谷川祥子 茨城県青年国際交流機構会長 田中南欧子 茨城県青年国際交流機構顧問 河津隆 NPO法人茨城県日中友好協会会長
日本青年による報告	茨城県福祉部こども政策局の市村志保局長、中国青年団の朱昊煒団長、日本青年団の別府充彦団長、茨城県日中友好協会の河津隆会長、茨城県IYEOの田中南欧子顧問のご挨拶ののち乾杯。中国青年団は「美美与共 天下大同」の書道と楽曲「夜空中最亮の星」の歌を披露した。日本青年団は楽曲「恋」に合わせたダンスと中国語歌詞を交えた「世界に一つだけの花」の歌唱を披露した。地元パフォーマンズとして、筑波大学邦楽部から琴や尺八で「六段の調べ」とスタジオジブリの映画音楽が披露された。

11月23日

プログラム	カスミ フードスクエア つくばスタイル店視察
都 市	茨城県
日本青年による報告	茨城県に本社を置くスーパーを見学。中国青年は価格やスーパーで売られている日本や茨城特有の商品に興味を示していた。日本青年は日本の代表的なお菓子や食べ物を中国青年に紹介し活発な交流が行われた。中国青年はその話を参考にたくさんのお土産を購入していた。

プログラム	サイバーダイnstudio (見学・体験)
都 市	茨城県
日本青年による報告	CYBERDYNE株式会社が運営するサイバーダイnstudioにて、同社のサイバニクス技術を駆使した最先端ロボット等の展示を見学した。また、装着型サイボーグHALの体験においては、脳信号で身体を動かすという動作原理を身をもって学ぶことができた。

事業報告

2024年度日本・中国青年親善交流事業 東京フォーラム

内閣府は、2024年度日本・中国青年親善交流事業(第42回)において、東京フォーラムを2024年11月19日から23日までの5日間の日程で実施した。

日本青年代表団は、別府充彦団長ほか、副団長2名、渉外2名及び日本青年15名の合計20名で構成された。中国青年代表団は、朱昊煒団長ほか、秘書長1名、中国青年18名の合計20名で構成された。

東京フォーラムでは、東京都プログラムと茨城県プログラムを実施した。各地における活動の概要は、以下のとおりである。

東京都プログラム（11月19日～21日）

11月19日14時30分、中国青年代表団は羽田国際空港に到着した。その後ホテルニューオータニへ移動して日本青年代表団と合流し、オリエンテーションに臨んだ。

同日18時、同ホテル内にて中国青年代表団代表は由布和嘉子内閣府大臣官房審議官への表敬訪問を行った。その後18時30分からは、由布和嘉子内閣府大臣官房審議官主催歓迎会が開催された。在京中国大使館の王琳公使参事官をはじめ、民間の日中友好団体関係者、テーマに関係する日本の省庁職員、青年国際交流事業既参加者等多くの出席者を前に、両国青年は文化紹介としてそれぞれの国の歌や踊り、書道などのパフォーマンスを披露し、盛況であった。

11月20日午前9時、両国青年は東京大学の川島真教授による基調講演を聴講した。

同日午後、両国青年は環境省を訪問し、日本の環境政策について講義を受けた。

午前中からの各講義における質疑応答の時間では、両国青年から活発な質問が行われた。

その後、同日15時30分からは都市センターホテルにおいて①気候変動・環境と、②少子高齢化の二つのテーマに

分かれてグループディスカッションが行われた。

11月21日午前、両国青年は、こども家庭庁を訪問し、日本の少子化対策政策について講義を受けた。質疑応答の時間には両国青年から活発な質問が行われた。

11月20日、21日の各政府機関訪問における講義を通じて、両国青年はディスカッションに向けてテーマに関する基礎的な知識を得た。

同日14時10分からは成果発表会を実施し、両国青年がディスカッションで議論した内容についてグループごとに成果をまとめて発表し、それぞれのテーマに関するグループごとのディスカッション内容について相互理解を深めた。

同日夕方からは日本青年の企画による中国青年の東京都内視察を行った。中国青年からは「日本青年のおもてなしの心に感動した」等のコメントがあり、満足度の高い結果となった。一方の日本青年からは「ディスカッション中にはあまり言葉を交わす機会が無かった中国青年とも交流することができ、距離が縮まった」という声が聞かれ、事業の初期において両国青年の友好関係の構築に資する、満足度の高いプログラムとなった。

茨城県プログラム（11月22日～23日）

11月22日から23日まで、茨城県水戸市及びつくば市にて茨城県プログラムを実施した。

11月22日、両国青年は水戸市到着後、11時から茨城県庁にて大井川和彦茨城県知事を表敬訪問した。知事からは、茨城県と中国との縁や、産業が集積する同県では常に人材を要しており、日中両国の青年にとって魅力的な県である、などのお話があった。

その後、両国青年はバスでつくば市へ移動し、茨城県に本社を置くレストランチェーンの「板東太郎」にて昼食をとり、天ぷらなどの日本食を味わった。

同日15時からつくば市役所にて五十嵐立青つくば市長を表敬訪問し、その後つくば市役所から「地方創生」をテーマにつくば市の取組について講義を受けた。続いて両国青年に茨城県地元青年を交えて「地方創生」をテーマにディスカッションを行い、茨城県庁やつくば市役所で得た知見を用いて議論を行った。

18時からホテル日航つくばで歓迎会が開かれ、地元青年や関係者等、多くの方の歓迎を受けた。筑波大学邦楽部のパフォーマンスでは、琴と尺八という中国に由来する楽

器による音楽演奏を聴き、両国の長い交流関係を学ぶ機会となった。中国青年のパフォーマンスでは中国で流行する歌を合唱で披露し、最後には日本青年も参加してスマートフォンのライトを振りながら一緒に歌い、両国青年の友好が一層深まった。

翌11月23日、両国青年は茨城県に本社を置くスーパーマーケットであるカスミを視察し、茨県の特産品をはじめとする日本の食品について日本青年が中国青年とペアを組んで一緒に店内を歩きながら紹介し、日本の食文化への理解を深めた。

続いて両国青年はサイバーダイナミクススタジオを視察し、同社が開発するロボット、装着型サイボーグHAL®の体験を行った。四肢に障害がある方のリハビリや、介護従事者、重量物運搬等に関わる方の支援等多岐にわたる活用事例を学び、日本のロボット技術について興味深く質問が行われた。

同日11時、中国青年は帰国のため成田空港へ、日本青年は北京フォーラム参加の渡航準備のため東京へ出発した。

実行委員感想文

“IBARAKI”で繋がる日本と中国 茨城県IYEO受入実行委員長 吉良 慶信

はじめに

昨年の日中事業受入においては、多くの貴重な経験を得る機会をいただきました。このレポートでは、特に印象に残った具体的な体験、学びと成果、そして今後の活動への展望について述べさせていただきます。

特に印象に残った具体的な体験

今回のプログラムでは、つくば市役所での講義とグループディスカッションが特に印象的でした。我々、茨城県IYEO受入実行委員は「地方創生」をテーマとする本プログラムの訪問先に、最先端事例として知られるつくば市役所を選定しました。

つくば市は「市民のために科学技術を生かすには」という大きな問いを出発点にスーパーシティ構想を描いています。人口減少や地方の過疎化といった課題に直面する両国の参加者にとって、つくば市の取り組みは単なる事例以上の示唆をもたらしました。

市職員による講義では、都市全体のデジタル化やAI活用による利便性向上の具体例が紹介され、参加者たちの好奇心を強く刺激しました。講義後に行われた「科学技術で自分の暮らしを豊かにするには」というテーマのグループディスカッションでは、全員が市民の目線で感じる課題意識を共有した上で科学技術を用いた解決策について話し合いました。ディスカッションを通じて、青年が日中で抱えている課題の共通点に気が付く場面もありました。

つくば市のプログラムは深い示唆を与えるものでした。参加者からは「この取り組みは我が国でも参考になる」との声が寄せられ、訪問先の選定が正しかったと感じています。

学びと成果

プログラムを通じて最大の学びは、「茨城の魅力をどのように伝えるか」という点でした。当初、「茨城」は参加者にとって馴染みの薄い地域だったかもしれません。しかし、茨城県知事による茨城と中国の結びつきについての講話をはじめ、茨城の自然、食、産業を体験してもらう中で、多くの参加者が茨城のファンになってくれたと感じています。

参加者の声からも「茨城県プログラムが楽しかった」「再び訪れたい」といった感想が多く寄せられ、事業を通じて地域の魅力を深く印象付けることができたと確信しています。このプログラムは、茨城のポテンシャルを国内外に発信するための有効な手段であったといえるでしょう。

今後の展望

私たち実行委員はこの度の受け入れ事業を通して、茨城を“世界のIBARAKI”にしていきたいと思うようになりました。世界中の人々が「IBARAKIに行ってみたい」と思えるような地域づくりに貢献していきたいと考えています。

そのためには、今回のような受け入れ事業を継続的に実施し、地域の魅力を国内外に発信し続けることが重要です。また、事後活動を通じて参加者とのネットワークを構築・維持し、茨城のファンを広げていくことにも力を入れていきます。

おわりに

本プログラムの遂行にあたり、多大なご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。皆様のお力添えがあったからこそ、茨城県にとっても、参加者にとっても実りの多いプログラムとなりました。



茨城県知事表敬訪問時の集合写真

第4章

北京フォーラム

行 動 地 図

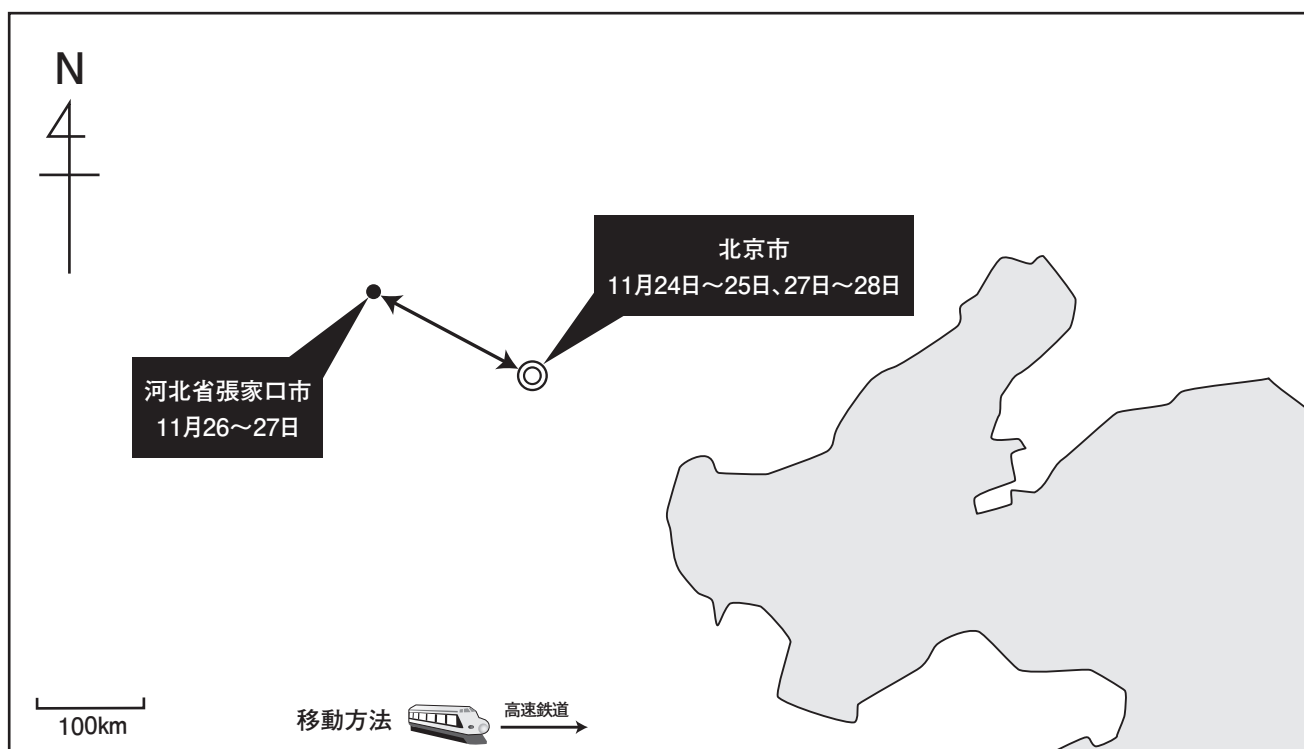
行 動 記 録

訪問先等一覧

事 業 報 告

行動地図

2024年度日本・中国青年親善交流事業 北京フォーラム



行 動 記 録

2024年度日本・中国青年親善交流事業 北京フォーラム

	月日	時間	活動内容	滞在都市
1	11月24日 (日)	8:55 12:35 15:30-22:40	羽田空港発 北京首都国際空港着 中国青年と北京視察・夕食 —博物館体験コース：国家博物館、前門大柵欄 —胡同文化コース①：史家胡同博物館 —胡同文化コース②：史家胡同博物館、王府井	北京市 ↓
2	11月25日 (月)	8:30-11:40 11:40-13:35 14:10-14:40 16:00-17:10 19:06 20:10	中日青年対話会（基調講演、ディスカッション） テーマ②少子高齢化 テーマ③地方創生 昼食・中華料理作り体験 金杉憲治 駐中華人民共和国日本国特命全権大使 表敬訪問 董霞中華全国青年連合会副秘書長 表敬訪問 清河駅発（高速鉄道） 太子城駅着	↓ 河北省張家口市
3	11月26日 (火)	8:30-09:05 13:35-13:55 15:25-16:00	崇礼オリンピック選手村療養施設視察（②少子高齢化） 徳勝村視察（③地方創生） 張北風力・太陽光発電モデルプロジェクト視察（①気候変動）	↓
4	11月27日 (水)	8:45- 9:40 10:05-11:20 13:34 14:30 15:45-18:00	張家口市中日青年交流座談会 張家口無形文化遺産体験館見学・蔚県切り絵体験 張家口駅発（高速鉄道） 清河駅着 中央民族大学での成果発表及び歓送会	↓ 北京市
5	11月28日 (木)	8:20- 8:45 8:45-10:35 15:15	天安門見学 故宮見学 北京首都国際空港発	↓

訪問先等一覧

2024年度日本・中国青年親善交流事業 北京フォーラム

11月24日

プログラム	北京視察(博物館体験コース)
都 市	北京市
日本青年による報告	中国青年の案内のもと、中国国家博物館を見学した。古代から近代までの歴史的資料が数多く展示されており、教科書で見たことのある青銅器や兵馬俑などを見ることができた。退館後は天安門広場を散策し、前門大柵欄につながる路地にある「満恒源涮肉」にて火鍋(中国式しゃぶしゃぶ)を楽しんだ。食後は路地沿いの商店や前門大柵欄を見て回り、お土産を購入したり北京名物のヨーグルトを食べたり、賑やかな夜の北京を満喫した。

プログラム	北京視察(胡同文化コース①)
都 市	北京市
日本青年による報告	中国青年の案内のもと、中国の古くからの街並みを残している胡同を見学した。胡同博物館では、中国青年の翻訳を通して、胡同の歴史や有名な人物をガイド付きで知ることができた。現代に近づくにつれて生活を支える電化製品が増え、徐々に生活が豊かになっていった歴史を目の当たりにした。その後、北京の繁華街である王府井でいくつかのグループに分かれてお土産を購入し、若者に人気だという「海底撈」にて火鍋を食べた。後海で中国の美しい夜の景色を楽しんだ後、他グループと合流して記念撮影を行った。

プログラム	北京散策(胡同文化コース②)
都 市	北京市
日本青年による報告	中国青年が中国で有名なミルクティーをオンラインで手配し、日本青年とともに楽しむ機会を用意してくれた。胡同博物館では、昔の胡同の様子や高度経済成長期の胡同の人々の暮らしを、模型や写真を交えてガイドの説明とともに学んだ。特に、伝統的な四合院の構造や、住民の生活の変遷について詳しく知ることができた。夜は火鍋を囲み、一人の日本青年の誕生日を祝うために特別な飾り付けが施されていた。変面や麵を伸ばすパフォーマンスを楽しみながら、中国青年による温かいもてなしに胸が熱くなった。

11月25日

プログラム	中日青年対話会(基調講演、ディスカッション) テーマ②少子高齢化 テーマ③地方創生
都 市	北京市
面 会 者	宋健(Song Jian) 中国人民大学人口与発展研究中心 人口与健康学院教授 曲強(Qu Qiang) 中央民族大学新聞与伝播学院副院長 国家郷村復興局專家
日本青年による報告	別府充彦団長・朱昊煒団長よりご挨拶があり、宋氏による「中国の質の高い人口発展戦略」をテーマとして、少子高齢化に直面する中国が質の高い人口発展をどのように実現していくかについて基調講演をいただく。続いて曲氏より「中国における都市と農村の融合と発展の新パターン」をテーマとして、ソーシャルメディアの視点から見る都市農村融合発展と農村振興について基調講演をいただいた。基調講演を伺う中で、中国における少子高齢化や地方創生への考え方には日本に類似する部分も多くあり、非常に興味深かった。

プログラム	昼食・中華料理作り体験
都 市	北京市
面 会 者	王煥玲(Wang Huanling) 講師 蔣亜琴(Jiang Yaqin) 講師
日本青年による報告	中国国際青年交流センター内の友誼厨房にて、日中青年5人1組で餃子を作った。最初に講師のレクチャーの下、日本青年一名が実演を行い餃子作りのポイントを教わった。その後各グループに分かれ、事前に用意された材料を用いて餡を皮で包み、ゆでる工程を体験した。料理中は日中の餃子の違いや家庭での餃子作りについて会話が交わされた。自分たちで作った餃子もおいしかったが、講師の方が作ったものは肉汁がぎゅっと詰まっていて格別だった。

プログラム	金杉憲治駐中華人民共和国日本国特命全権大使 表敬訪問
都 市	北京市
面 会 者	金杉憲治 駐中華人民共和国日本国特命全権大使 他
日本青年による報告	金杉大使から中国事情を含む講演が行われた。最近の中国情勢や日中関係の変化について講義が行われた。日本青年からは、東京フォーラムを通して感じた中国への印象の変化を大使に伝えとともに、これからの日中関係においてどのような姿勢で臨むのがよいのか等について質疑応答が行われた。金杉大使は疑問がある場合は来て、見て、感じる事が大切であることを述べ、国際関係で交流する際には相手のことをよく聴くこと、自分のことを主張することが大切であると発言された。

プログラム	董霞中華全国青年連合会副秘書長 表敬訪問
都 市	北京市
面 会 者	董霞(Dong Xia) 中華全国青年連合会副秘書長
日本青年による報告	中華全国青年連合会副秘書長の董霞氏にお話を伺った。この事業を通じて日中両青年が継続的に交流を続けることが重要であり、「バトン 夢を紡ぐ。未来へ繋ぐ。」という日本青年団のスローガンはまさに本事業で紡いだ中国との繋がりを今後につけていくことを表しているというお話が印象的であった。また、今後は大局的に世界を見ることが出来る若者の育成が必要であり、本事業はそれに大きな役割を果たすというお言葉をいただき、本事業を通じてそのような力をつけていきたいと一層身が引き締まった。

11月26日

プログラム	崇礼オリンピック選手村療養施設視察
都 市	河北省張家口市
日本青年による報告	選手村療養施設のうち、金メダリストが実際に休んでいた部屋を見学させていただいた。中国代表選手たちが休んでいたエリアであり、交流用の施設も併設されている。訪れた部屋は当時の試合の写真も飾られており、広々とした空間が広がっていた。自主開発されたベッドは頭側だけでなく足側も自動調整が可能。トイレもバリアフリー仕様になっていた。滞在する人が療養できるよう、隅々まで考え抜かれた部屋である。2022年冬季五輪の裏で選手たちへの細やかな配慮に感銘を受けた。

プログラム	徳勝村視察(③地方創生)
都 市	河北省張家口市徳勝村
面 会 者	徐亜茹(Xu Yaru) 副書記
日本青年による報告	太陽光発電の導入によって、農村で新しいビジネスを確立した徳勝村を視察した。当日は零下19度の厳しい寒さと強風のため、屋外で少し説明を受けた後、残りはバスの車窓からガイドを聞きながら見学した。雪をかぶっていたが、一面に太陽光パネルが広がっていることが分かった。担当者の説明からは、村に現金収入がもたらされたことで貧困からの脱却を果たした経済モデルを学ぶことができた。

プログラム	張北風力・太陽光発電蓄電モデルプロジェクト視察
都 市	河北省張北県
面 会 者	梁立新(Liang Lixin) 風光儲示範工程副主任
日本青年による報告	張北にある大規模な風力・太陽光発電蓄電の施設を見学した。「張北の風で北京の灯をともし」という言葉に表れているように、張北で作られたクリーンエネルギーが北京に供給されているということを学んだ。電力供給の仕組みは大規模で、先進的な技術を用いていた。説明してくださった梁主任が、「世界的な問題を解決するために、世界中にこの中国の技術を伝えていきたい」とお話しされていたのが印象的であった。

11月27日

プログラム	張家口市中日青年交流座談会
都 市	河北省張家口市
面 会 者	李長青(Li Changqing) 張家口市政治協商會議副主席 王鑫鈺(Wang Xinyu) 共青団河北省委員会統戦与社会連絡部幹部 安小芳(An Xiaofang) 共青団張家口市委員会副書記
日本青年による報告	はじめに李長青張家口市政治協商會議副主席より歓迎の挨拶と張家口市に関するお話を伺った。河北省は北京との経済圏の境目であり、張家口市は、緑に恵まれる農牧地帯でありながら風力・太陽光発電にも積極的取り組み、2022年冬季五輪の開催地ともなった場所である。白ワインの製造では初の国際基準に達した。マイナス20度の寒さにもなる地で迎え入れてくださる張家口市の皆様の温かさを知ることができた。

プログラム	張家口無形文化遺産体験館見学・蔚県切り絵体験
都 市	河北省張家口市
面 会 者	張慧婷(Zhang Huiting) 講師
日本青年による報告	伝統的な手工芸品や美術品を鑑賞後、張慧婷講師より切り絵の文化と歴史についての講義を受けた。その後各人が工芸用ばさみと小刀を用いて、下書きに沿って赤い紙を切る作業に没頭した。まずは中央の複雑な模様から切ること、左右対称な図案は紙を半分に折って重ねて切ると効率的などのポイントを教えていただいた。帰りには職人による精巧なパンダの切り絵をお土産にいただき、匠の技に感嘆した。

プログラム	中央民族大学での成果発表会および歓迎会
都 市	北京市
面 会 者	劉愛平(Liu Aiping) 中国国際青年交流センター理事長 劉森(Liu Sen) 中央民族大学外国語学院日本語学科学生 楊慕雲(Yang Muyun) 中央民族大学副学長 毛湛文(Mao Zhanwen) 中央民族大学メディア・コミュニケーション学院院长 徐進(Xu Jin) 中央民族大学美術学院副教授
日本青年による報告	中国における二次元文化についての講義をうけ、グループごとに作成していた漫画の発表が行われた。その後、日中両国青年から伝統衣装のファッションショーが行われ、中国は時系列ごとに主要な衣装が紹介され日本からは浴衣を紹介した。その後、中央民族大学大学生芸術団から、中国の伝統的な踊りと音楽の紹介があった。報告会では日中青年のうち数人が一人ずつこれまでのフォーラムを通じた総括を行った。最後に、日本語で「若者のトレンドとともに世界へ」という意味を持つ、「共舞青春 潮向世界」の書画を日中両青年で書き、改めて結束の強さを感じた。

11月28日

プログラム	天安門・故宮見学
都 市	北京市
日本青年による報告	ガイドの方の説明を受けながら天安門と故宮を歩いて見学し、故宮の広さと荘厳さに圧倒された。建物ごとに役割が細かく分かれていることや、現代の我々に馴染みのない一夫多妻制の家族構成など、伝統的な制度や文化について学ぶことができた。皇帝の権力を象徴するような壮大な故宮を目の当たりにし、教科書で学んだ内容が実際に目の前で広がっていることに感動した。

事業報告

2024年度日本・中国青年親善交流事業 北京フォーラム

2024年度日本・中国青年親善交流事業(第42回)東京フォーラムに続いて北京フォーラムを2024年11月24日から28日までの5日間の日程で実施した。

北京フォーラムは中華全国青年連合会をはじめとする中国側関係機関により企画・運営がなされ、北京市及び張家口市を訪問した。各地における活動の概要は、以下のとおりである。

北京市（11月24日～25日、27日～28日）

11月24日8時55分、日本青年は羽田国際空港を出発し、同日現地時間12時35分に北京首都国際空港へ到着した。同日夕方からは中国青年企画による北京市内視察が行われ、日本青年は、博物館体験コース、胡同文化コース①、胡同文化コース②の3つのグループに分かれて視察を行った。

11月25日午前、日中両青年は中日青年対話会に参加し、基調講演の後二つのテーマ（少子高齢化、地方創生）に分かれてディスカッションを行った。

その後、一行は中華料理作り体験で餃子作りを行った。中国青年が日本青年に餃子の作り方を丁寧に教える場面が見られ、伝統的な食文化体験を通じて友好を深めた。

同日14時10分から、日本青年は在中国日本国大使館にて、金杉憲治駐中国日本国特命全権大使を表敬訪問した。

金杉大使からは最近の中国情勢や日中関係に関するお話を伺った。質疑応答では、日本青年から活発に質問が行われた。

その後16時から、日本青年は中華全国青年連合会にて、董霞副秘書長を表敬訪問した。

19時6分、両国青年は清河駅から高速鉄道に乗り、河北省張家口市へ向かった。11月27日15時30分、河北省張家口市から戻った両国青年は中央民族大学での成果発表及び歓送会に参加した。

11月28日午前、日本青年は天安門、並びに故宮見学を行い、中国の歴史と建築について学んだ。その後15時15分、日本青年は北京首都国際空港で中国青年に見送られつつ、日本へ向けて出発した。

河北省張家口市（11月26日～27日）

11月26日から27日まで、両国青年は河北省張家口市を訪問した。

11月26日8時30分、両国青年は北京オリンピック・パラリンピック開催時の選手村である崇礼オリンピック選手村の療養施設を視察した。滞在する選手が療養しやすいようバリアフリー設計がなされており、オリンピック後の活用にも意識が向けられていた。

同日午後には徳勝村、及び張北県の太陽光発電の現場を視察した。徳勝村では太陽光発電によって現金収入を得ることができ、貧困からの脱却を果たした地方創生の事例を学んだ。

11月27日8時45分、両国青年は張家口市中日青年交流座談会に参加した。李長青張家口市政治協商会議副主席からの歓迎の挨拶では、張家口市が農業のほか、再生可能エネルギーの生成にも積極的に取り組み、地方創生を行っている事が紹介された。

その後10時5分から、張家口無形文化遺産体験館を見学し、切り絵体験に参加した。切り絵体験では講師の方から切り絵の歴史と文化を学び、中国の伝統文化に関する理解を深めた。

11時36分、両国青年は張家口駅から高速鉄道に乗り、北京へと出発した。